# エシャレットの生産安定に向けた取り組み

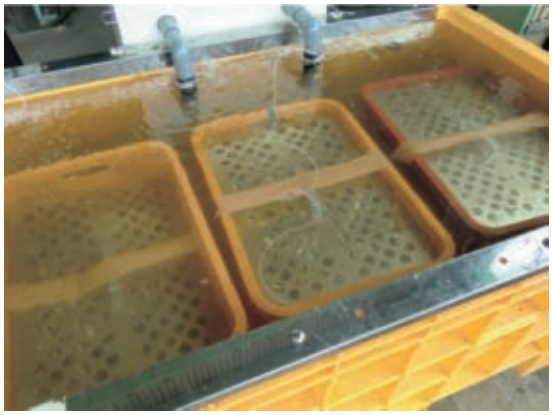
鹿行農林事務所　行方地域農業改良普及センター

行方地域では昭和 44 年からエシャレット栽培が始まり、昭和 63 年に茨城県青果物銘柄産地に指定され、今では日本一の産地になるまで発展してきました。行方地域ではエシャレットは魅力ある品目として経営の柱とする生産者が多いですが、高齢化によってここ数年出荷量が減少していました。そこで行方地域農業改良普及センターでは産地の維持発展を目指し、ＪＡ部会内の栽培技術委員会と連携して生産量の安定向上を目指した取り組みを行っています。

## 更なる栽培技術の向上を目指す栽培技術委員会

栽培技術委員会での実証圃を活用し、L～M規格の収量向上につながる総窒素量や追肥方法、さらには機能性成分や貯蔵性の向上を目的とした資材について実証圃を設置し検討を行ってきました。そして実証圃から得られた情報を講習会や普及情報等を活用して周知し、部会員全体の栽培技術の向上を図りました。

追肥方法を検討する実証圃での現地検討会



エシャレット種球の温湯処理

## 温湯処理による新たな病害虫対策

化学農薬の削減を目的に栽培技術委員会を中心に温湯処理に取り組んだところ、以前から産地では大きな問題となっていたフザリウム菌が要因と考えられる通称“ムラサキ症”とネダニに対して、温湯処理は効果的な対策であることが明らかになりました。今後は、より効果的な温湯処理技術を確立することで、安定生産と共に減農薬栽培を推進していきます。

## ウイルスフリー種球維持体制の確立

ＪＡなめがたでは ３～ ５ 月に出荷するウイルスフリー系統を栽培していますが、種球不足によりその時期の出荷量が減少していました。またエシャレットは次年度の種球も自分で準備する必要があるため、種球栽培も重要な技術になります。そこでウイルスフリー状態を維持しながら、効率的に種球を増殖できる方法について検討しています。

ウイルスフリー種球増殖圃場での播種作業